

町田潤一市長が逝去



病氣療養中の狭山市長・町田潤一氏が、平成15年6月19日の午後9時38分、肺炎による急性心不全のため入院先の病院で逝去されました。享年63歳でした。
通夜・告別式は、6月22・23日に金剛院(南入曽)で、しめやかに行われました。氏の生前の遺徳を偲び、政・財界ならびに海外から、また、各種団体の代表者など約4千500人が会葬し、故人の冥福を祈りました。



くぬぎ山地区の自然再生に、積極的に取り組みました。写真手前左から大木環境大臣(平成14年9月当時)、町田狭山市長、土屋埼玉県知事

氏は、昭和62年4月から平成6年4月まで埼玉県議会議員として連続二期、県政の発展に活躍され、その後同年5月から第四代狭山市長に就任されました。そして現在に至るまで9年1か月の長きにわたり、市民福祉の向上と地方自治の振興発展に尽力されました。



多くの参列者に見送られ、永遠に旅立られる町田市長

この間、氏は環境先進市をめざして、全国3番めのリサイクル都市宣言や全国初のノーレジ袋デーの実施をはじめ、自然エネルギー利用施設の建設、くぬぎ山地区自然再生事業の取り組みなどの環境施策を実施し、全国から大いに注目を集めました。また、国際感覚あふれる氏は、国際社会の一員として狭山市民が世界の人々と積極的に交流できるよう、米国ワシントン市との姉妹都市締結や中国杭州市との友好交流都市締結をはじめ、韓国統營市との姉妹都市継承確認宣言など国際交流を推進されました。さらに、他市に先駆けてAL(語学指導助手)を全中学校に配置するとともに、小学校に外国語授業を導入するため外国語早期

教育推進特区の認定を受けるなど、世界に目を向けたまちづくりに貢献されました。また、都市基盤の整備をはじめ福祉の増進、教育の充実、産業の振興などにも尽力され、市の発展に数多くの功績を残されました。

また市長職以外にも、防衛施設周辺整備全国協議会副会長、東京狭山線整備促進期成同盟会会長、埼玉県環境審議会委員など、幾多の要職も歴任し、各方面で幅広く活躍されました。

故・町田潤一氏の略歴

- 昭和14年11月15日生まれ
- 昭和37年3月、中央大学法学部法律学科卒業
- 昭和43年5月、ジョージワシントン大学大学院法律学科修了
- 昭和62年4月～平成6年4月、埼玉県議会議員
- 平成6年5月～15年6月、狭山市長
- 平成6年5月～15年6月、東京防衛施設局地方審議会委員
- 平成6年5月～15年6月、東京狭山線整備促進期成同盟会会長
- 平成8年2月～15年6月、埼玉西部広域事務組合副管理者
- 平成8年4月～15年6月、防衛施設周辺整備全国協議会副会長
- 平成10年1月～15年6月、埼玉県環境審議会委員
- 平成10年11月～15年6月、埼玉県国際政策懇話会委員

身近なエアコンの省エネ効果はこんなにも

夏 冷房設定温度を
27 から 28 に

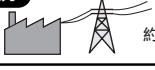
冬 暖房設定温度を
21 から 20 に

通年 運転時間を
1日1時間短縮

一人の取り組みでは、
省エネ効果が少ないように
思えますが、全世帯で
取り組むと、とても大き
な成果が生まれます


日本全体の省エネ効果

消費電力 約131億kWhの削減




原油換算 約314万ℓの削減

200ℓ/缶



ドラム缶1,570万本 東京ドーム2.5杯

CO₂削減 約471万トンの削減



杉の木約3億4千万本

出典：財団法人／省エネルギーセンター【家庭の省エネ】大事典



地球温暖化は現在も進行中

日常の省エネ行動が大切です

私たちの身の回りにおける自動車やさまざまな電化製品などは、日常生活に欠かすことができません。これらを上手に利用し、エネルギーを効率的に使うことで、賢くシンプルな省エネ型ライフスタイル「スマートライフ」を實踐して、地球温暖化を防ぎましょう。

電化製品や自家用車が増え、大量のエネルギーを消費

エネルギー消費で最近特に増えているのが、家庭やオフィスなど使われる電化製品などの民生部門と自動車などの運輸部門です。特に家庭でのエアコン、冷蔵庫などの電化製品の保有台数が伸びたり、鉄道やバスなどよりもエネルギーの消費が大きい自家用車の利用が増えています。

電化製品や自家用車は、私たちに便利な生活を提供してくれる反面、その増加はエネルギーを大量に消費することになり、地球温暖化などの環境破壊にもつながっています。

私たちの身の回りから省エネを实行しましょう。私たちのライフスタイルを変えていくことが、エネルギー消費に大きな影響を与えます。つまり、家庭やオフィスでの省エネの取り組み

地球温暖化を進めるCO₂の排出量を減らしましょう

エネルギーの大半は、石油や石炭などの化石燃料を燃やすことで得られます。そしてこれに伴い大気中にCO₂（二酸化炭素）が排出されます。エネルギーの大量消費でCO₂の濃度が上がり、地球が宇宙に放出するはずの熱がCO₂などのガスによつて大気中に封じ込められ、地球が温暖化しています。

このまま地球温暖化が進むと洪水が起きたり、熱帯性の伝染病が広がるなど、環境に重大な悪影響を及ぼす恐れがあるのです。

私たちの身の回りから省エネを实行しましょう。私たちのライフスタイルを変えていくことが、エネルギー消費に大きな影響を与えます。つまり、家庭やオフィスでの省エネの取り組み

- 家庭でできる主な省エネ
- ① 電化製品の待機電力を90%削減する
 - ② ボットや炊飯ジャーの保温をやめる
 - ③ 洗濯は風呂の残り湯を使い、容量の8割程度の洗濯が効果的
 - ④ 家族が同じ部屋で団らんし、冷暖房や照明の利用を2割減らす
 - ⑤ 買い物袋を持ち歩き、簡易包装の食材を選ぶ
 - ⑥ 見たい番組を選び、1日1時間テレビ利用を減らす
 - ⑦ 掃除機をかける前に部屋の整理整頓をする
 - ⑧ 電気冷蔵庫の温度設定を弱くし、庫内に食品を入れ過ぎない
 - ⑨ 自動車のアイドリングはやめる

みが地球を守るようになるのです。深刻な地球温暖化にストップをかけるためには、一人ひとりが常に環境に対する問題意識を持ち、行動に移すことが大切です。

私たちの日常生活の中で使用している機器など、エネルギーをたくさん消費しているところから、省エネを实行しましょう。

問合せ環境政策課へ内線3671